

平成 2 9 年度 事業計画書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)



学校法人 九州国際大学

(平成 29 年 3 月 23 日 理事会)

— 目 次 —

I. 基本方針	1
II. 平成 29 年度予算概要	2
1. 教育活動収支.....	3
2. 教育活動外収支.....	4
3. 特別収支.....	4
4. その他.....	4
III. 事業計画・方針	
[学校法人]	
1. 人事関係.....	5
2. 施設拡充関係.....	5
3. 財務関係.....	7
4. 情報公開.....	7
[九州国際大学]	
1. 教育概要.....	8
2. 教育支援.....	11
3. 学生支援.....	14
4. 就職支援.....	14
5. 研修事業.....	15
6. 地域貢献.....	15
7. 国際交流.....	18
[九州国際大学付属高等学校]	
1. 教育概要.....	19
2. クラス編成.....	20
3. 進路サポート体制.....	21
[九州国際大学付属中学校]	
1. 教育概要.....	22
2. 教育活動の特色.....	22
3. 教科目標.....	23
4. 教育設計.....	23

I. 基本方針

〔学校法人〕

社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、地域に根ざした私立学校としての大きな役割を果たしていくことを念頭に、先行き不透明な時代をたくましく生き抜く若者を育成することが重要な時代になってきております。

教育機関の競争力の源泉である教育・研究の質は、学校のマネジメント能力やガバナンスに多く依拠しています。したがって、目指すべき方向性を示す明確な旗印を中期経営計画としてまとめ、その改革内容を年次計画にして内外に具体的に発信し、社会的な評価を確保していきたいと考えています。

本法人は、第二期中期経営計画「平成 26 年度～平成 30 年度（5 年）」において、第一期中期経営計画を持続的に発展させるべく、以下内容を骨子として事業を実施していきます。

戦略Ⅰ	〔教育力〕：地域に根ざし、地域に必要とされる教育の実践
戦略Ⅱ	〔研究力〕：地域課題に基づく研究活動の実施
戦略Ⅲ	〔社会力〕：教職員人材等の地域活動への参加
戦略Ⅳ	〔募集力〕：本気で学ぶ生徒・学生の獲得を目指した定員充足率の向上
戦略Ⅴ	〔経営力〕：経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行

今後の経営改善計画の実行にあたっては、財務的な裏付けによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。特に、学校教育の根幹である教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗の管理に取り組んでいきます。

〔大学・大学院〕

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

大学・大学院部門は、経済学部と国際関係学部を発展的に改組し、平成 29 年 4 月からは、現代ビジネス学部（地域経済学科・国際社会学科）としてスタートいたします。既設の法学部を含め、“新生・九国大”として、2 学部 3 学科 2 研究科体制で教育研究活動を展開してまいります。また、教育研究活動及び地域貢献活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって『第三期中期計画（平成 28 年度～平成 32 年度）』を推進します。卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう学部の教育基盤を更に強化し、「就業力」、「学士力」を育ててまいります。

〔中学校・高等学校〕

付属中学校・付属高等学校は、高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州地域から注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えております。授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

Ⅱ. 平成 29 年度予算概要

平成 29 年 4 月より、現代ビジネス学部が開設されると同時に、入学定員を減じて（600 名から 500 名）、2 学部 3 学科体制となります。そのため、縮小する事業規模に見合った予算に再編するスタートの年となります。また、文部科学省の教育改革は、平成 25 年に「教育再生実行会議」が発足後、教育再生をキーワードとして、様々な審議会のまとめや法改正が行われています。平成 29 年度の予算は、それらの教育改革を踏まえて、事業計画を再度見直し・点検することを前提に編成いたしました。

大学部門では、「私立大学等改革総合支援事業」に対応する取り組みを推進し、当該事業のポイント獲得に向けた制度設計を図り、事業採択による収入増加を目指します。

学生・生徒の確保による収入増に努めるとともに、支出の部で大きな割合を占める人件費、奨学費等について、総額（総数）管理を前提とした構造改革を推進します。

学校法人の収入の多角化や調達方法の効率化及び定型業務の集約型アウトソーシングなど、経営の合理化についても検討いたします。

また、教育研究施設等の保全・整備については、法令順守や学生・生徒の安心安全を確保するものを最優先とし、実施します。

予算編成については、引き続き選択と集中を図り、費用対効果を考慮した高い教育サービスの提供に向けて支援体制の充実に努めてまいります。

平成 29 年度 学校法人九州国際大学 事業活動収支予算書

（単位：百万円）

科 目			予 算	備 考
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,410	
		手数料	76	入学検定料等
		寄付金	0	施設設備寄付金以外の寄付金
		経常費等補助金	842	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	64	寮、エクステンション等の補助活動収入
		雑収入	144	財団交付金、施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,536	
	支出	人件費	2,205	退職金含む
		教育研究経費	1,356	
		管理経費	356	事務管理費、学生募集経費
		徴収不能額等	0	
		教育活動支出計	3,917	
教育活動収支差額		▲ 381		
外収支	収入	教育活動外収入計	5	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	6	借入金等利息
	教育活動外収支差額		▲ 1	
経常収支差額		▲ 382		
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		その他の特別収入	30	施設設備寄付金
		特別収入計	30	
	支出	特別支出計	0	資産処分差額など
		特別収支差額	30	
予備費		30		
基本金組入前当年度収支差額		▲ 382	旧会計基準の帰属収支差額	
基本金組入額合計		▲ 143		
当該年度収支差額		▲ 525	旧会計基準の消費収支差額	
事業活動収入計		3,571		
事業活動支出計		3,953		

※1) 平成 25 年 4 月 22 日に文部科学省令第 15 号「学校法人会計基準」が公布され、40 年ぶりに会計基準が改正されました。これに伴い、平成 27 年度より、新たな会計基準に沿った計算書類で経理処理等を実施しています。上記事業活動収支計算書は、旧会計基準における消費収支計算書にあたるもので、単年度の収支を 3 つ（教育活動収支・教育活動外収支・特別収支）に区分して示したものです。

※2) 単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

1. 教育活動収支

(1) 教育活動収入

① 学生生徒納付金

入学定員確保を重要課題として募集活動に取り組みます。また、教育の質保証システムを構築し、中退予防等を含む教育支援に取り組み、安定的な収入の確保に努めます。

② 経常費等補助金

大学部門における私立大学等経常費補助金については、近年、文部科学省の政策誘導型補助に比重を置いた事業が展開されているため、補助金収入を保守的に見積っております。教育の質保証システム構築のためにも、「私立大学等改革総合支援事業（採択制）」など、原資となる補助事業の採択に努めてまいります。

高等学校・中学校部門における福岡県私立学校経常費補助金は、一定の在学学生数を保持しているため、前年並みを見込んでおります。このように、平成 29 度の補助金収入については、各部門の状況及び過去の受給傾向等を考慮して収入計上しています。

③ 付随事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画し、学園のプレゼンスを高めていきます。また、その他の外部資金（学外研究等）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進し、研究費調達の多様化を促進します。

寮運営事業について、大学学生寮（紅梅寮）は、留学生やサークル学生に限らず、多様な学生を受入れることで稼働率を上げていきます。高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、サークル生を中心としてニーズが高まり、定員に近い入寮生を確保しています。大幅な支出超過とならないよう経費削減に努め、寮生の教育面・生活面をサポートしていきます。

④ 雑収入

施設設備利用料について、学園の PR を兼ねて広く周知し、学校法人の財政基盤の一助となるよう外部の利用を促進いたします。

(2) 教育活動支出

① 人件費

「前年度賞与支給率の維持」、「非常勤講師経費などの削減」に努め、予算編成方針に基づく数値目標内で予算措置を図っています。引き続き、総額人件費の管理に努めていきます。

② 教育研究経費及び管理経費

予算編成方針に基づき経費等を積算し、前年度当初予算と比較して、教育研究経費及び管理経費は増加しています。主な要因は、キャンパス全体の照明 LED 化事業を計上しており、当該経費内に一時的な大規模事業が含まれているためです。この経費を除けば、前年並みの予算編成額となっております。

2. 教育活動外収支

(1) 事業活動収入

① 受取利息・配当金

近年は、退職給与引当特定資産の大部分を定期預金で運用しています。減価償却引当特定資産においても安全性を考慮して、普通預金・定期預金・地方債等により運用しています。これら特定目的資産の運用については、平成 29 年度も引き続き銀行預金中心の運用を行い、安全性・流動性を重視します。

3. 特別収支

(1) その他の特別収入

① 施設設備寄付金

魅力ある学園づくりのために、教育環境の整備が重要となっています。本学園では、平成 26 年 2 月より「施設設備拡充及び教育環境整備事業」を目的として寄付金の募集活動を実施しており、寄付金趣意書に基づき 5 ケ年（目標額：1 億円）を目途に継続しています。

4. その他

(1) 施設設備関係

本学園の全キャンパス（枝光地区・平野地区）の蛍光灯等を LED 設備に更新いたします。これにより、電気代及び蛍光灯管球代の固定費削減効果が期待されます。

施設の長寿命化や省エネルギー化に向けて、保有資産を健全に維持していくことが重要と考えております。今後も、質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けた取り組みを強化いたします。

Ⅲ. 事業計画・方針

[学校法人]

1. 人事関係

(1) 組織改革・人事体制

平成 29 年度より、現代ビジネス学部が開設され、同時に入学定員を減じて(600 名から 500 名)、2 学部 3 学科体制となります。前年度に引続き、事務効率化と学生サービス機能の向上を両立させた事務組織に再構築するため、管理部門及び教学対応事務部門の再編等を検討し、新体制に向けた準備等を進めてまいります。そのうえで、少数精鋭の人員体制へ移行し、事業規模に見合った職員数及び適正な年齢構成に向けて、段階的に是正いたします。人事計画に基づく人員管理を前提として、「有期雇用契約職員の業務及び雇用形態の見直し」、「新卒者の定期採用」等により優秀な人材を確保していくことで組織全体の高度化を目指します。

そのために、平成 29 年 4 月 1 日より施行される大学設置基準の改正に基づく SD（スタッフディベロップメント：Staff Development）研修の義務化に対応し、役職者を含む教職員の高度化に向けた SD を計画的に実施いたします。

(2) 職場環境の安全・衛生保持

労働安全衛生法に基づき、本法人が雇用する職員の安全及び衛生に関する事項について、各事業場（平野キャンパス・枝光キャンパス）に安全衛生委員会を配置し、「職員の健康保持増進」、「安全な職場環境の保持・改善」、「労働災害の防止」等について継続的な取り組みを実施しています。職員の健康面については、健康診断及びストレスチェックの結果等に基づき、産業医と連携を図りながら、きめ細かな対応を実施していきます。

2. 施設拡充関係

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件 名
平野キャンパス (大学)	研究棟	電気給湯器
	体育教官室	AED トレーナーセット
	教材準備室	カードリーダー
	1 号館事務局	複合機一式
枝光キャンパス (高等学校)	特別教室	プロジェクター更新
	第一会議室	SURFACE PRO4 一式
	第 2 グラウンド	ハンドボールゴール
	化学準備室	薬品庫
	ICT 教室	ICT 教室 ipad Air
枝光キャンパス (中学校)	共用棟	情報教室ノート PC
	教室	生徒用机・椅子
	1 階エントランス	AED
	理科室	電源装置

(2) 施設整備関係

部門	設置場所	件 名
平野キャンパス (大学)	1 号館	屋上熱源オーバーホール
	1 号館	出入口シートスリップ防止工事
	平野記念館	アリーナ観覧席補修工事

	平野キャンパス	消防設備不具合箇所修理工事
	全建物及びグラウンド外灯等	照明 LED 化工事
	多目的グラウンド外灯等	照明用電源工事
枝光キャンパス (高等学校) (中学校)	A 棟	天井内配管補修工事
	B 棟	事務室入口床補修工事
	C 棟	高架水槽塗装工事
	D 棟	教室出入口扉用金物修理
	3 号館	揚水ポンプ取替工事
	3 号館	屋上熱源取替工事・ガス配管工事
	武道館	消火ポンプ取替工事
	合宿棟	屋上防水工事
	第 3 グラウンド	法面補修工事
	第 3 グラウンド	屋外照明設置工事
	橘寮	定水位弁取替工事
	全建物対象	消防設備不具合箇所修理工事
	全建物及びグラウンド外灯等	照明 LED 化工事

(3) 情報・通信機器整備等

① グループウェアの更新

大学の教職員向けグループウェアについて、最新の教育機関向けクラウド型サービス「Office 365 Education」への移行が完了しました。引き続き平成 29 年度には、枝光キャンパス（付属中学校・高等学校）の教職員が利用するグループウェアシステムについても、現在の Google Apss から Office 365 Education に移行し、学園全体としてのグループウェア環境の統一をはかります。これにより、一元的管理体制による運用コスト削減と、情報共有化の推進を実現します。

② ICT 教育環境整備事業

ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）を活用した教育の展開及び文部科学省の「高大接続改革」における能動型学習の推進など、初等・中等教育における授業方法の改革が進展しています。このような背景を受けて、付属中学校・高等学校における今後の ICT を活用した教育方法のあり方、及びこれらを実践できる環境整備計画の策定が急務となっています。平成 29 年度は、試行的段階として設置した「ICT ルーム」を実際に運用することで得られる成果のフィードバックをもとに、中・長期的な ICT 教育環境の整備を視野に入れた全学的な環境整備計画を策定します。

③ ネットワーク回線の増強

現在、学外向け通信及びキャンパス間の通信は、光アクセス回線を契約していますが、今後、枝光キャンパスのクラウドサービスの利用拡大や、Wi-Fi 環境の拡充による利用機器の増加が見込まれるため、通信量の増大に伴う速度低下を回避し安定的運用を図る目的で、ネットワーク経路及び基幹通信装置・サーバ機器等の更新を実施します。

④ ホームページリニューアル

付属中学校・高等学校のホームページは、ほぼ毎日に及ぶブログ記事の更新により閲覧数が増加しています。さらにコンテンツの充実を図るとともにスマートフォンやタブレット端末による

閲覧性を向上させ、進学を検討している受験生・保護者・学校関係者などへの訴求力を高めるため、附属中学校・高等学校のホームページの全面リニューアルを実施いたします。

3. 財務関係

適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙していきます。一般経費の予算編成に関しては、事業計画の効果予測を検証し、根拠に基づき予算積算しています。建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得に関しては、優先度を勘案しつつ、計画的に予算化しています。資産運用については、引き続き定期預金等の安全性の高い運用に努めていきます。また、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金は順調に返済しており、当該年度の返済額も約定日までに返済します。

これらを総じて、学園の財政安定化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

4. 情報公開

私立学校法第 47 条及び学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。また、「学園情報誌：キュートビ」や「大学要覧」を発刊し、本学園の取組みや財務情報、学生活動を紹介するなど広く情報提供していきます。

また、「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

[九州国際大学]

1. 教育概要

《教育改革の方向性》

大学の教育の質の向上、ガバナンス改革の推進等の背景を受けて、文部科学行政の施策が加速するとともに、大学への社会からの期待は高まっています。

産業界から求められる人材を育成するためには、より一層の教育改革が必要であることから、ナンバリングや履修系統図を意識して、科目の配置や体系化に向けたカリキュラム改革を検討し、“地域社会から必要とされる人材”の育成モデル構築に向けた改革を進めてまいります。

(1) 法学部 / 法律学科

法的なものの考え方をベースにした、あらゆる問題に柔軟に対応できるジェネリックスキル（汎用的技能）は、どのような時代にあっても不可欠なものです。グローバル化が進み、先の読めない現代社会では、ますます必要な能力といえます。アクティブな学びで、理論と実践のバランスのとれた実社会で活躍できる人材を育てていきます。

[法律学科]

◆ リスクマネジメントコース —警察官や消防官など公務員を目指す—

警察官、消防官、行政職員に必要な危機管理の考え方や手法を学べます。行政・企業等におけるリスクが増大するなか、将来性の高い分野です。

◆ 資格取得コース —国家試験合格を目指す—

宅地建物取引士や行政書士などの国家資格取得や、法律のスペシャリストを目指す人のロースクール進学をバックアップします。

◆ キャリアコース —組織運営のスペシャリストを目指す—

学部に設立した法人組織に参加し、学生自らが学んだ法律等を使い、実際に組織を運営することを通じてビジネスに必要な組織運営能力を育成します。全国でも例のない画期的なコースです。

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科（平成 29 年度開設）

グローバル化が進む現代社会では、国はもとより地方の企業や地方自治体においても、その対応が急務となっており、それぞれの自治体では人口減少や高齢化に対応するために、地域の特性を活かした新たな「まち・ひと・しごと」の創生が求められています。そのような時代のニーズに応えるために新設したのが、現代ビジネス学部です。

基礎となる経済の知識や語学力だけでなく、グローバルな視点とローカルな視点をあわせ持つことで、さまざまな課題に柔軟に対応し、解決へと導くことができる人材を育てていきます。また、これまで以上に実践型のプログラムを取り入れることで、多様な人と協働できる高いコミュニケーション能力を養います。

[地域経済学科]

◆ 経済コース —経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる—

多領域にわたる経済の知識を獲得し、あらゆるビジネスシーンで活用できる力を養います。

◆ **経営コース** —ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる—

経営の主要 3 分野（経営・会計・流通）の理論を総合的に学ぶことで、企業のマネジメントに携わることができる人材を育成します。

◆ **地域づくりコース** —地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる—

建学以来、地域に根ざし、地域とともに歩みつづけてきた九国大ならではの専門コースです。地域活性化をテーマに、農村体験やイベントの企画運営など地域と連携した活動を通じて、地域課題を解決できる企画力と実践力を培っていきます。

◆ **観光ビジネスコース** —観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる—

今後ますます成長産業として期待される「観光」をキーワードに、課題解決型の学びと実践的なプロジェクトで、あらゆる業界で即戦力となる力を養います。

◆ **スポーツマネジメントコース** —スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる—

ビジネスマナーや経済学、経営学の基礎知識を習得しながら、スポーツ関連ビジネスに求められる知識やスキルを磨いていきます。地域のスポーツチームなどと連携したフィールドワークが多いのが特長です。地域とつながりながらスポーツ体験を将来の仕事に活かしたい人、指導者になりたい人にも最適なコースです。

[国際社会学科]

◆ **英語コース** —国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる—

「聞く」「話す」「読む」「書く」力を高め、「使える」英語力の獲得を目指します。学んだことを実践・発展させるために海外体験を必修化し、新たにカナダとフィリピンに実習先を開拓します。英語を活かした職業に就くためにも必要な知識も習得させ、国際社会で活躍できる総合力を養います。

◆ **ハングルコース** —韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる—

日韓を中心に国際ビジネスの現場で活躍できる人材、地域の魅力を広くアジアに向け、発信できる人材を育てます。人的交流が盛んな隣国への知識を深め、実践的な学びを通して韓国語を修得し、交換留学や海外実習などで国際感覚を磨きます。日韓を中心に国際ビジネスの現場で活躍できる人材、地域の魅力を広くアジアに向け、発信できる人材を育てるのが目標です。

◆ **国際コース** —現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる—

国際的な視野をもち、異文化への深い理解に根ざして他者と協働しながら、国内外のさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。異文化理解や新興国・途上国について知識を深め、体験的な学習を通して国際的な視野を広げます。

(3) 経済学部 / 経済学科・経営学科（平成 29 年度、現代ビジネス学部へ改組転換）

多様化する現代社会で「問題発見能力」、「問題解決能力」を発揮できる人材を育成することが経済学部の教育目標です。そのため、国内外の様々な経済活動を理解できることや、今の国際化や情報化した社会に沿った幅広い教養と専門的知識、さらに、高いコミュニケーション能力を養えるようカリキュラムを工夫しています。

経済学科は、将来、企業や地域社会で活躍したい人のための学科です。経済の理論と知識を修

得し、世界と地域の経済を見つめる確かな目と、深い教養、豊かな人間性を身につけた人材を育成します。また、経営管理やマーケティングを学んで、実践的なマネジメント能力や情報・会計のビジネススキルを修得したい人のために、経営学科を設けています。

[経済学科]

◆ 地域づくりコース — 地元企業・地方公務員を目指す —

より良い社会づくりに貢献できる人材を育成する。それを地元のフィールドを活用して実践するのが「地域づくりコース」です。知識の習得だけではなく、実践力を育てることを重視した体験型学習。農村の現状を知るための田植え・稲刈り体験や、地元企業へのインターンシップ、さらに、地域再生の歴史や事例、手法を学び、実際にイベントや店舗運営などを通して、地域社会の問題を解決できる力を養います。

[経営科]

◆ ビジネスアカウンティングコース — 税理士・会計士を目指す —

専門的な会計の知識を持ったビジネスパーソンを育てるコースです。15名限定の特別クラスで、4年間会計学担当の教員が徹底指導します。まず目指すのは、日商簿記検定2級の全員合格。さらに1級合格者、税理士や公認会計士を目指しての大学院進学というように、エクステンションセンターと連携して知識を蓄積し、管理会計や財務管理など専門科目によって応用力を養い、4年次では卒業論文に取り組みます。こうした一連の学びから、分析結果を明解な文章で表現できる、大卒ならではのプロを育てていきます。

◆ ビジネスリーダーコース — 実務体験で生きた経営を学ぶ —

企業経営に必要な知識とスキルを身につけることを目的としているのが「ビジネスリーダーコース」です。家業を継ぐ人や、将来、起業を考えている人はもちろん、各部署のリーダーや経営幹部といった企業の中核を担う人材を育成するための、本格的なプログラムを用意しています。地元企業でのインターンシップや、北九州の企業経営者によるリレー講義など、体験を重視した生きた経営学を学びます。さらに3年次では、ビジネスゲームやケーススタディの分析・ディスカッションで、発想力や問題解決力を培っていきます。

◆ ビジネス・アスリートコース — スポーツと勉学の両立を目指す — （※両学科共通）

スポーツに関する科目やフィールドワークを多く取り入れた科目が特長で、将来、指導者を目指す人材や経済・経営学の視点から企画・運営を行い、地域に貢献できる人材を育成していきます。

◆ 企業人養成コース — 総合職や営業で活躍する企業人を目指す — （※両学科共通）

イベントプランニングやビジネスデータ分析などを学び、提案や企画力に優れたビジネスマンを育成していきます。

(4) 国際関係学部 / 国際関係学科（平成29年度、現代ビジネス学部へ改組転換）

近年では、国境を越えた経済・社会のつながりや日本と諸外国との共生が重要な時代となっています。グローバル化が進む世界の中では、他国の文化や社会を理解し、真の国際感覚を養うことが大切です。国際関係学部は、そんな時代と社会の要請に応え、国際教養とグローバルなコミュニケーション能力を備え、真に世界で活躍できる人材の育成を目指します。語学力を磨くのは

もちろん、相手の国の文化や社会・経済の仕組みを理解するために、豊富な外国人教員の授業や多彩な海外実習制度など、これまでの学際的教育と外国教育を更に深めていきます。

[国際関係学科]

◆ 英語コース — 使える英語を身につけるための学習支援 —

国際関係学部の子の一つである国際言語運用能力、その中でも「英語」は「世界共通言語」として最も重要な言語です。英語コースは徹底した英語教育を行います。

到達度別クラス編成で、自分の英語力に適したクラスからスタートし、レベルに応じて段階的に学習していきます。

◆ ハングルコース — 韓国語と「韓国」を学ぶ —

ヒトやモノ、情報の流れが広がり続ける日韓両国ではハングル語を駆使できる人材が求められています。ハングルコースは、楽しさと実践的な講義で、需要が高まる韓国語のスペシャリストを育成します。

◆ 観光ビジネスコース — 実践的アプローチの学習 —

旅行、ホテル、鉄道などの観光ビジネスを中心とするホスピタリティ産業への就職を目指します。ホスピタリティ産業とは、旅行やホテルのみならず、旅客を扱う鉄道やバス、航空、テーマ・パークなども含まれます。このような分野において求められる能力を培うことができるように、実践的・実務的なアプローチを重視するとともに、関連する資格・検定対策に必要な知識を提供できるようにカリキュラムや支援制度を準備しています。

◆ 国際協力コース — 協働する技術を学ぶ —

NGO や NPO、青年海外協力隊や国際関連機関などで将来的に活躍できる人材を育成します。国際関係学部が力を入れるホスピタリティに根ざしたコミュニケーション能力は、まさに国際協力の取り組みに必要とされるものです。語学はもちろん、グループワークなどの参加・体験型学習を通じて対話を積み重ね、国内外での実践的な「実習」を数多く経験していき、教員と学生が二人三脚で取り組んでいきます。

(4) 大学院 / 法学研究科・企業政策研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する、様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

企業政策研究科では、経営実務に関する高度な知識、企業を取り巻く外部環境にかかわる専門知識をもつ人材の育成を目指します。

2. 教育支援

(1) 入学前教育プログラム

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、推薦入試・AO 入試の入学予定者に対して「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施いたします。基礎教育センター所員を中心にオリジナルの「入学前教育テキスト（国語・英語・数学・社会）」を作成し、学習支援を行います。また、チームワークと学修支援を行う「入学前教育スクーリング」を 3 回実施する予定であり、入学後に安心して大学生活が過ごせるよう教育支援しております。

(2) 学士課程教育の体系化

ディプロマ・ポリシーと各科目到達目標との関連性、学習内容の順次性、科目間の内容の関連性、必修・選択科目の区分など、多様な要素を表現した「カリキュラムマップ」を作成し、教え手である教職員と学び手である学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有することにより、学生が4年間で学ぶ道のりを俯瞰できるように取り組んでいきます。

(3) 初年次教育

入学者の基礎学力や目的・職業意識の低下により退学者が増加しています。学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組んでいます。授業科目の共通教育科目の基礎科目に必修科目として、入門セミナーⅠ・Ⅱを配置することで、大学で学ぶために必要となる読解力や論理的思考力等の基礎的な学修スキルや能力、将来に向けた目標を設定し、社会人基礎力として必要な力を身につけていきます。この授業は、大学における人間関係や居場所の構築のための役割も果たしていきます。

これら取組みの一環として、新入生研修（FM：フレッシュャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）を実施していきます。

(4) 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生が卒業するまでに具体的にどのような力を身につけ、どの程度の向上を図ることができたのか、自己の学修成果を振り返り、学生生活の自己管理のために「学生ポートフォリオ」を作成し、ゼミ担当教員が指導していきます。

(5) 公務員受験対策総合プログラム

本プログラムは、カリキュラムの正課科目及び公務員受験対策講座、相談ブース（チューター制度）等を複合的に組み合わせ、公務員を目指す共通の目的を持った学生を支援し、公務員希望者の底上げを目指していくものです。1年次ではチューターが公務員試験ガイダンスや職場見学などを行い、公務員という職業に対して興味を持たせます。2年次では、カリキュラムに配置している「キャリアプラン（公務員希望者クラス）」で公務員に必要なスキルを学びます。

同時に、公務員受験対策講座（基礎教養コース）を受講させ、必要に応じてチューターが大学内の専用ブースにて受験相談、学習相談などを個別に行います。3年次では、カリキュラムに配置している「キャリアプラン実践（公務員希望者クラス）」で公務員試験の学習計画の立案やエントリーシートの書き方など、具体的な受験対策を行います。

さらに、公務員受験対策講座（教養型市役所コース）、公務員受験対策講座（地方上級・国家一般職コース）を受講させ、公務員合格者（目標：合格者数30名）を輩出できるようサポートしていきます。

(6) PROG テスト（外部評価試験）の導入

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル（汎用的な技能）」を測定する PROG テストを全学部を導入しています。PROG テストは、基礎力を「リテラシー」と「コンピテンシー」

の 2 つの側面から測定するテストで「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものです。「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。この PROG テスト結果の分析を行い、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

また、外部試験を活用し、授業の中で良質な学習体験を提供するなど、大学の教育プログラムの改善に役立てていきます。

(7) 実践型教育の推進

実社会と協働した実践型教育を行い、社会人に不可欠なソーシャルスキルが身につくだけでなく、自ら体験することで知識を学ぶ必要性を実感でき、学びのモチベーションアップにも繋がっていきます。

学生が能動的に学ぶ学習法としてアクティブラーニングを推進し、教育の充実を目指します。また、社会実習、地域連携活動や海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校での語学実習、外国事情研修、国内外でのボランティア活動や企業実習等を開講します。

(8) スタディスペースを活用した教育支援

学生が講義の空き時間に訪れ、「オフィスアワー」で待機している教員から講義でわからないところを納得のいくまで教える学習支援に取り組んでいます。学生の動向や相談内容が多様化するなかで、研究室では不都合が生じる場合、学生が気軽に立寄り、多種多様な相談が可能な空間として、学生生活をサポートするインフォメーション的な役割を、SA（スチューデントアシスタント）、教員、職員が協同で支えています。教員への相談だけに留まらず、グループ学習や自主的なミーティングにも利用を広げていきます。

(9) 基礎教育センター教育支援

高校で学んだ学習内容の復習や大学での基礎科目の復習など、将来就職試験に必要な学力を学生一人ひとりに合わせた個別指導やグループ学習による指導で教育支援を行っております。

また、留学生全員を対象とした初年次教育「留学生サポートプログラム」を実施し、日本語能力向上を支援いたします。

(10) ビブリオバトル教育支援

ビブリオバトルとは、参加者が各々5分で本を紹介し、読みたくなった本（チャンプ本）を投票して順位を決めるスポーツのような書評会です。

本学では、ゼミ教育の一環として、ビブリオバトルを活用した教育支援を実施しており、各種大会への出場を目指して継続的に実施していきます。

(11) ラーニングコモンズ

主体的・創造的な学びのスタイルとして、学生の自律的な学習を支援する目的として、各大学でラーニングコモンズが展開されています。本学においても、ラーニングコモンズの運用を開始し、複数の利用者が集まり、図書館資料を用いて議論を進めていく「教育の場」を提供しています。学修効果を向上するための活用方法やゼミ教育の場としてのあり方を研究しつつ、ビブリオバトル等のプログラムを実践する場としても活用していきます。

3. 学生支援

(1) 課外活動の活性化

サークルの活性化及び加入率の向上を目指すため、新学期の初めに体育会本部、文化会総務委員会と連携を図り、体育系サークルや文化系サークルへの入部を促進していきます（目標：サークル加入率50%）。

体育会本部では、「^{ケイアイユウ フィールド}**KIU Field**（人工芝多目的グラウンド）」を活用した学長杯スポーツ大会などを企画・開催し、学生の課外活動を積極的に支援していきます。

(2) 女子学生への支援

女子学生の交流促進のための活動拠点として「女子部屋」を整備しています。女子学生が主体的に活動し、女子学生の交流が活発化することにより、大学の魅力の一つとして広報活動に繋がっていきます。ここでは、「女子」をキーワードとして様々な企画が実行できるよう支援していきます（目標：イベント開催4回/年）。

(3) 学生FDサミット

「学生FDサミット」は、全国から学生FD活動に取り組む学生・教員・職員が集結し、各大学における成果発表に基づき、大学教育における課題等について共有・議論する場です。今後も、学生の主体的な活用の促進に向けて教職員がバックアップできる体制を整えていきます。

(4) 学生のニーズ調査

学生満足度を向上させることを目的として、学生自治会主催の連絡協議会（春学期：2回、秋学期：2回、計4回）を開催し、四協学生（学生自治会、体育会、文化会、大学祭実行委員会）の代表との意見交換を通じて学生のニーズを聴取します。

また、従来から継続して取り組んでいる学生満足度アンケートを実施し、学生のニーズ把握にも努め、学生指導に繋げることで、満足度の向上を目指します。

(5) 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために、相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問・相談に応じます。個別成績相談会以外に、就職関連の講演会などを開催することで保護者へ必要な情報を提供していきます。

4. 就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE」

KIU-SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education の略称）は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」を具体化する形で、入学からの4年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業によるキャリア教育と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を授けるための就職対策支援講座、各種セミナー、模擬試験（基礎学力）、インターンシップなどにより構成されるキャリアサポートを統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組は、学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・

発展的に取組む事業となっています。

今回、これまでのキャリア形成支援プログラム「KIU－SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education の略称）」を基軸としつつも、正課授業のキャリア教育科目を就職環境に即した内容へとさらに発展させました。平成 29 年度から、正課授業の「キャリアデザイン」、「キャリアプラン」、「キャリアプラン実践」の中で体系的に業界研究や自己分析、履歴書及び面接指導などを盛り込み、就職活動に直結する実践的な内容のものとして再構築していきます。また、昨今、企業選びの志向が勤務地、特に地元志向が顕著なっていることを踏まえ、北九州商工会議所とも連携を図りつつ、地元企業の魅力を伝えるなどの取り組みも導入しています。その他にも、求人検索 NAVI システム「就職支援 NAVI システム」を新たに導入することで、すべての教職員と保護者が本学の求人情報をリアルタイムで閲覧することを可能にしました。これにより、学生、保護者、大学の三者が相互に情報を共有し密に連携を取りつつ学生の就職活動を支援する仕組みが構築されます。

(2) エクステンションセンターによるキャリア支援

エクステンションセンターでは、資格取得講座、就職支援・スキルアップ講座、教養講座、その他提携講座など、学生の学習ニーズにあった各種講座を企画し開講しています。平成 29 年度は、年間で 17 講座 32 コースを予定しており、特に資格取得講座等の講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法による高い合格率の実現を目指しています。受講メリットは、専門学校より安価な料金設定のうえ、講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるばかりか、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。さらに、社会人と一緒に学ぶことで刺激を受け、必然的に社会マナーを修得する機会にもなり得ると同時に、やる気を起こさせる動機付けの効果も狙えます。

5. 研修事業

学校法人九州国際大学職員人事規則に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質保証に必要な活動になります。FD 研修では「学士課程教育の質的保証」、「アクティブ・ラーニング」「授業研究」等を中心として、各学部・研究科において実施してきた研修を継続的に展開していきます。

SD 研修については、平成 29 年 4 月の義務化を受けて計画的な研修機会を設けていきます。

また、セメスター毎に実施している授業アンケートの分析結果などを踏まえて、FD 委員会・教務委員会において対策を講じ、授業運営の改善を図っていきます。

さらに、研究授業、授業見学及び他大学の先進事例について情報を得る学外研修会等を実施し、FD・SD 活動を発展的に推進していきます。

6. 地域貢献

(1) 地域連携推進助成事業

地域連携センターでは、本学の有する学術的な蓄積（人的資源・知的資産）や教職員・学生等の力を活用して、地域づくりに取組んでいる方々や団体を支援することを目的とした地域連携推進事業を実施します。

(2) 「ひとみらい交流ウィーク」への参画

地域連携センターでは、副都心黒崎のにぎわいづくりを目的とした「ひとみらい交流ウィーク」において、「終活セミナー2016」を開催し好評を得たため、平成 29 年度も引き続き、同セミナーを開催する予定です。

また、「ひとみらい交流ウィーク」では、昨年度同様スタンプラリーの場を設置し、多くの子どもがご家族と一緒に当センターに来場できるよう計画します。

(3) 北九州市民カレッジへの参画

地域連携センターでは、市民の多様なニーズに対応した学習の機会を提供するため、北九州市（生涯学習センター）事業の「高等教育機関提携コース」に参画し、本学教員を中心に講座編成を行い、受講ニーズ及び満足度の高い講座の提供を目指します。

(4) 北九州市年長者大学校穴生学舎シニアカレッジへの参画

本事業は、年長者のニーズに対応した生涯学習の拠点として、その社会参加の促進を目的とした研修事業で、北九州市社会福祉協議会穴生学舎の主催事業です。

地域連携センターでは、受講ニーズを踏まえながら講座のテーマを設定し、本学教員による講座を編成し積極的に本事業に参画していきます。

(5) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

地域連携センターでは、本学同窓会の協力のもと、前回に続いて前期と後期の 2 期に亘り、原則として毎月第 2・第 4 の土曜日、各期 10 回、生活に関連して発生する法律の諸問題に関する「市民講座・市民相談」の開催を計画しています。

(6) 九州国際大学「地域連携センター市民講座」の開催

地域連携センターでは、本学の人的資源と知的資産を活用した本学教員によるセンター独自講座の企画を行い、地域市民や地域社会への社会貢献を目指します。

(7) 大学コンソーシアム関門事業への参画

関門地域の高等教育機関が相互に連携・協力し、関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、高等教育機関が地域社会へ貢献する目的で結成された大学コンソーシアム関門に参画し、本学教員が講座を担当します。

(8) ボランティア活動への参加

ボランティアサークルに所属している学生を中心として地域のボランティア活動に参加しています。地域等からのボランティアの要請に応えるよう、各サークルとの連携を図り積極的な参加を呼びかけています。また、学内掲示板において、ボランティアの募集案内を広く周知し、一般学生の参加も奨励しています。

(9) 地域行事（前田地区）への参加

本学が位置する地元地域では、「さくら祭り（4 月）」、「七夕の夕べ（7 月）」、「前田祇園山笠の

山笠巡行・競演会（7月）、「夕涼み会（8月）」、「ふれあいもちつき大会（12月）」などの祭事がとりおこなわれています。

前田祇園山笠の山笠行事は600年以上の歴史を有し、遠賀川流域圏で古くから展開されてきたと考えられ、北九州市無形民俗文化財に指定されています。本学は、地域に開かれた大学として、教職員及び学生が主体となってこれら行事へ参画し、地元地域との交流を深めながら、地域貢献していきます。

(10) 「つながる絆！八幡」実行委員会への参画

産学官民で組織される「つながる絆！八幡」実行委員会に参画し、11月下旬に開催される八幡駅前イルミネーション・点灯式の実施のため、学生を中心として地域との連携を強化する活動を実施いたします。自治体、企業、地元住民参加による実行委員会を通して、学生の企画力・運営力を養成できる実践の機会として取り組んでまいります。

(11) Dream100 作文コンテスト

九州・山口の高校生を対象に「Dream100 作文コンテスト」を実施しています。この事業は開学80周年（平成20年）に始まり、設定されたテーマに基づいて、高校生の皆さんに100文字以内で自由に思いを綴っていただくコンテストとなっています。この企画は中等教育活性化の一助になることを期待した社会貢献事業として継続して実施する予定です。

(12) 英語スピーチコンテスト

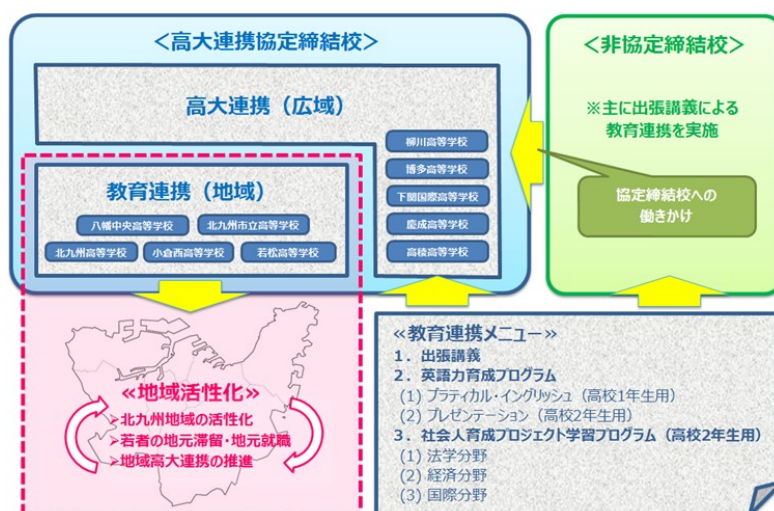
全国の高校生を対象として英語スピーチコンテストを実施します。過去のコンテストでは、多くの後援・協賛団体からの御支援を賜り、日頃鍛えた英語力を発揮して、熱意のこもったスピーチが展開されています。この企画は、地球の未来及び国際社会を担うわが国の若者が、国際語である英語を使って自らの考えや主張を表現する場を設け、幅広い世界観を持ち国際性豊かな青年の育成に寄与することを目的として開催されます。

(13) 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域課題（三大都市圏への人口流出等）の背景を受けて、3つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しています。地域の子供たちを地域で育み、地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。

① 出張講義

高等学校からの依頼により、本学の教員が高等学校へ出向き、関心の高いテーマでできるだけわかりやすく講義を行います。これは高校生の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを育てようと、地域貢献活動の一環として実施しています。



②高大連携（広域連携）

高等学校から要望された教育テーマに基づいて、本学独自の大学体験プログラムや出張講義を定期的に行い、高等学校と大学による共同で連携教育を行うものです。平成 28 年度までに柳川高等学校、博多高等学校、下関国際高等学校、慶成高等学校、高稜高等学校の 5 校との連携協定を締結し、今後も連携を展開してまいります。

③教育連携（地域連携）

北九州市内の高等学校と教育連携を図ることで、地元企業で活躍する人材を地域という枠組みで育成しております。地元の人口滞留を図るとともに地域の活性化を狙いとした取組みとして、平成 28 年度までに八幡中央高等学校、若松高等学校、北九州市立高等学校、北九州高等学校、小倉西高等学校の 5 校と高大教育連携協定を締結し、地元北九州の活性化を目指し展開しております。

7. 国際交流

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

なお、平成 28 年度より英語圏の大学とも交流を行うため、シリマン大学（フィリピン）・カルガリー大学（カナダ）と学術交流に関する覚書を協定し、学生を研修派遣する予定です。今後もフィリピン、カナダ、アメリカ、韓国、台湾の各大学との交流協定締結に向けた調査・交渉を実施し、海外英語研修プログラムの実習先を確保していきたいと考えております。

（主な国際交流事業）

- **交換留学制度** : 協定校への留学（半年又は 1 年間）
- **認定留学制度** : アメリカ、中国、韓国、インドネシアの大学に留学（半年又は 1 年間）
- **海外社会実習** : 主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** : 長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・オーストラリア）
- **ホスピタリティ交換留学・実習留学** : 国際関係学部「観光ビジネスコース」の留学制度

[九州国際大学付属高等学校]

1. 教育概要

男女共学として生まれ変わった付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。九国付が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中でつちかわれてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。

九国ライフデザインプログラム

～ 4 つ の 側 面 から 生 徒 の 夢 を サ ポ ー ト ～



「現役合格」を実現する、充実のカリキュラム

1・2年生の間は、難関クラスから進学クラスまで共通のカリキュラムで授業が実施されます。そのため、進級時のクラス入れ替えもスムーズに行えます。問題集やプリント類による演習量や進度は、クラスによって違います。正課授業だけでも、公立高校より多い週35単位を確保。また、より多くの学校設定科目（演習）の導入により、大学入試問題に対応した授業を展開。充実の学習計画で、志望大学への「現役合格」へ導きます。

2. クラス編成

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S 特クラス	S 特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。S クラスと難関クラスは九国付のツートップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2 年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
準特進クラス	国公立大学や有名私立大学の受験を視野に入れた充実のカリキュラムで、やる気をしっかりサポート。生徒の意思を尊重した指導で、更なるレベルアップを促し、志望大学への現役合格を目指します。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリート クラス	推薦試験で入学する生徒を対象に 2 クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他のクラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

個性を大切にしたクラス編成

文系 理系

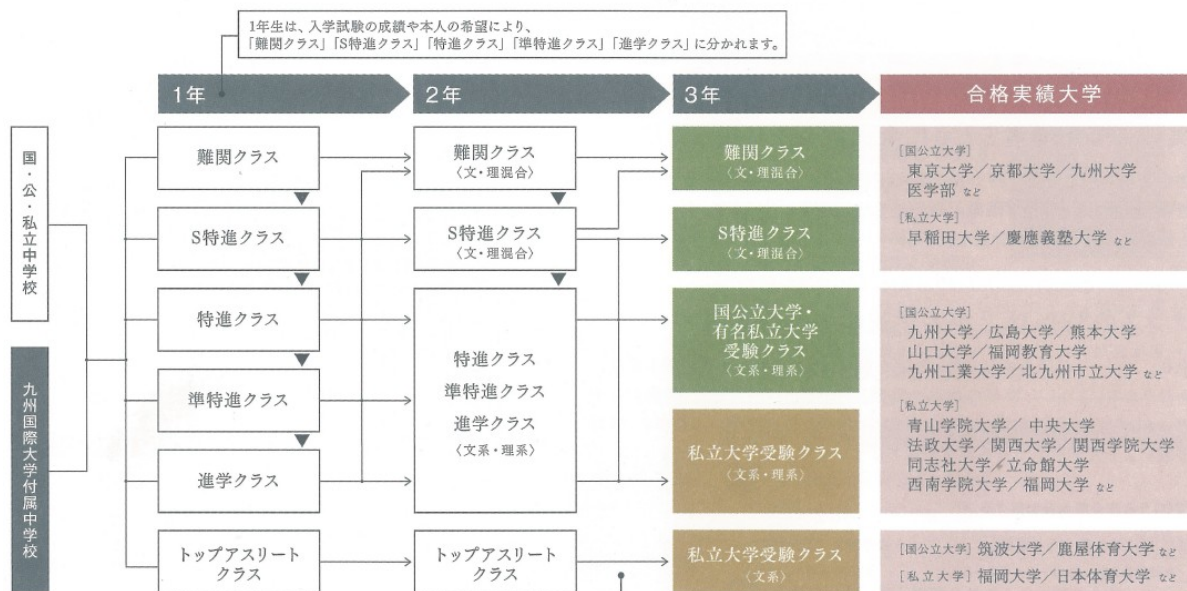
国公立大学受験クラス

大学入学試験に対応した、5教科を集中的に学習します。
国公立大学・難関私立大学合格を目指します。

文系 理系

私立大学受験クラス

文系は国・社・英、理系は数・理・英の3教科を中心に学習します。
得意科目を活かし、国公立大学・有名私立大学合格を目指します。



3. 進路サポート体制

(1) 自己マネジメントプログラム「夢橋（ゆめたちばな）」

自己マネジメントプログラム「夢橋」は、先輩たちの足跡に学び、一人ひとりの夢を本気で実現させる「勝利の方程式」の一つです。1 週間単位の生活プランノートで、各々の目標にあわせて「未来の計画」を書き込みます。毎週の総合的な学習の一環として、時間割に組み込まれており、クラス担任の指導のもと、前週の反省点と次週の計画を立てさせ、自主性を育てる細かな指導を実践します。

(2) 学習・進学サポート

いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立し、土曜日や放課後に加え長期休暇中の特別講座を実施し、進学（合格）に向けての準備を万全にしています。

また、各種ガイダンスを実施して、勉強方法や受験までの心構え、受験動向などを早期から指導します。

(3) 入試対策

「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。

(4) データに基づく進路指導

生徒の成績を個別にコンピュータで管理・分析し、各々のデータに基づき数値やグラフと照らしあわせ、目標に向けて具体的な進路指導を展開します。各種データや情報は生徒や保護者に提供され、志望大学への指針を明確にして現役合格へと導きます。

(5) 放課後・休暇中の学習フォロー

生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、昼休みや放課後、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。生徒の習熟度や個性を熟知した教員が手厚く指導し、合格へと導きます。

(6) 関東・関西の難関大学視察

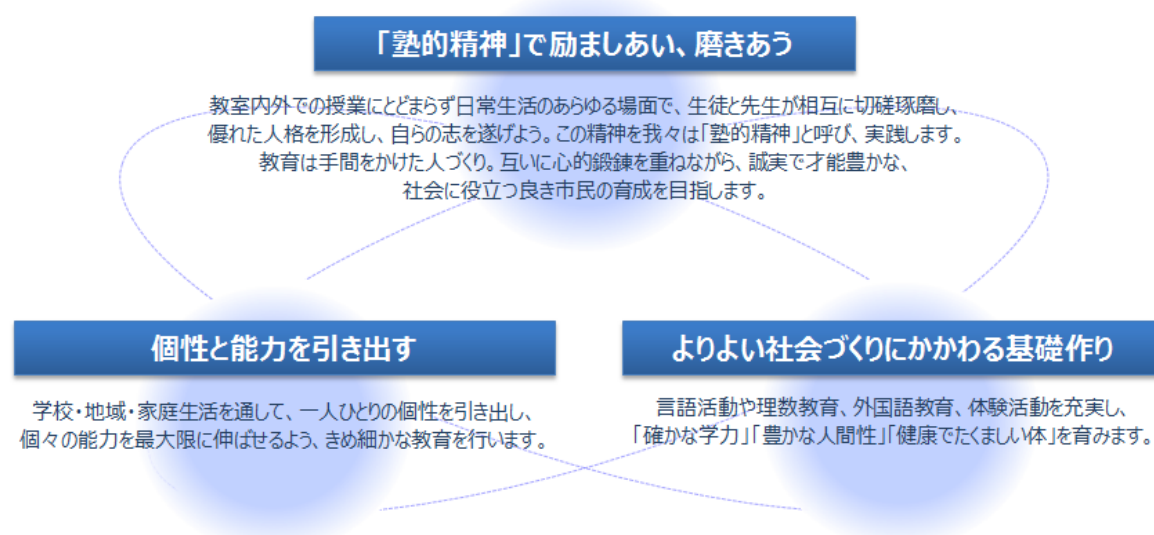
生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取組みの一環として、1 年次に関東・関西地域の名門大学視察を行っています。ハイレベルな大学を実際に自分の目で見ることにより、生徒の受験意識を高めます。また、視察により、各教員の指導力強化の意識をも高め、難関大学をめざす生徒への学力向上へとつなげます。

[九州国際大学付属中学校]

1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。教育活動全体を通して、良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、豊富な体験型学習により個性豊かな人間性の涵養に努めること、また、基礎的な学力を習得させるとともに思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培い、その結果に立って進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げて、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。



2. 教育活動の特色

合言葉を「K点(思い込みによる自分の限界点)突破!」とし、成長の段階に応じた自立を促すとともに、感性豊かな「人間力」を育てます。

学年	目 標
中学1年	中学生としての自覚を持たせ、自主的な生活ができる生徒を育てます。 友達の良さを認め、その輪を広げ、互いに人間性を高め合う生徒を育てます。
中学2年	精神的な成長を促し、真の学力向上を図ります。 生活面や学習面において自分自身を知り、そのうえで「自分づくり」「仲間づくり」に全力を注げる生徒を育てます。
中学3年	生徒の目標進路の実現を支えます。 周囲の支えに感謝し、自己理解を深め、自分の限界(K点)を越えられる生徒を育てます。

3. 教科目標

磐石の学習体制と豊富な体験学習を両輪に、人間形成、確かな学力、体力の向上を培います。

科目	目 標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身につけ、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることが出来る授業を展開し、数学的な見方や考え方を育てます。また、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得するためのドリル学習を充実させます。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習問題も多く取り組み、基本的な知識の定着と応用力の育成を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせ、目的意識をもって実験・観察を行い、探求的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフ作成やレポート作成、論述などを取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育みます。
英語	英語学習を通して4技能(話す、聞く、読む、書く)を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝え、相手の考えや気持ちを理解できるようなコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルな視野から、異文化を理解し尊重する態度を養い、かつ自国の文化をよりよく知り、次世代に継承していく精神を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた学級合唱の練習を通し、曲のイメージや各声部の役割を理解するとともに、協調の大切さを養い育てます。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・公正・克己心・集中力など、何事も耐えうる心と体を育てます。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を養います。
技術	「すらら」というパソコンソフトを使って、英語・国語・数学の学習を行います。授業の予習・復習から検定対策まで、一人ひとりの理解度に応じて出題される問題に取り組むことで、学習意欲を高めます。
家庭	自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を見につけさせます。また、実習を通して手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことのできる実践的な力を養います。
道徳	道徳の時間や教科、特別活動など全ての教育活動の時間を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としての生き方・豊かな心・道徳的实践力などを育てます。
総合的な学習の時間	さまざまな体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などに取組みます。体験・学習発表の準備や校長面接のための自己分析・エントリーシート作成などの時間にも使います。机の上の学習だけでは得られない体験を通して、想像力・思考力・発表力を育みながら「未見の我」の発見に努めます。

4. 教育設計

充実した中学校生活を過ごし、確かな知力・徳力・体力を身につけ、より高い進路の実現を目指します。

中学生にとって「高校入試」は大切な目標であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。本人と保護者が自由に高校を選択・決定して入試に立ち向かわせるという方針を取り、ユニークな併設型教育を展開しています。近年、文武ともに目覚ましい躍進を遂げている併設校（附属高等学校）の高校生の熱気を肌で感じながら、毎日を過ごしています。また、進路希望に応じ、中学3年3学期には、内部進学者、外部受験者のクラスを編成し、両方に対応できるよう適切かつ効果的で柔軟な学習指導を行います。また、専門部として進路指導部を置き、人生設計支援に努めます。



発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032